

Wellmiraにおける 海外取り組みの状況

2026年2月26日

株式会社Wellmira

To create a world
in which everyone is stimulated subconsciously
to realize good health.

世界中の誰もが、
自然に健康になれる社会を創る



2025
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
中小規模法人部門
ブライツ500

設立 : 2002年7月25日

所在地 : 東京都千代田区神田須田町1丁目23-1 住友不動産神田ビル2号館11F

資本金 : 1億円

代表者 : 渡辺敏成

株主 : 経営陣、テクミラホールディングス、リロクラブ、東邦ホールディングス、東京海上日動火災保険、興和株式会社、ルネサンス、みずほ証券、三菱UFJキャピタル、東京海上日動メディカル、サンケイリビング新聞社、明治安田生命、SBIインベストメント

What is Wellmira ?



Wellnessのミライを創造し、
健康に向けた行動変容をテクノロジーを活用して支援する会社です。

サービス事業

PHR (Personal Health Record) を活用し、
行動変容を支援するサービスを提供します。

カロママプラス



カロママオンライン



RenoBody



B2B2Cでサービス展開

(職域や自治体、スポーツクラブや小売店等と連携して提供)

ソリューション事業

ヘルスケアサービスの企画開発のプロフェッショナルとして、
クライアントの課題を解決します。

当社サービスから
生まれた
ソリューション

ヘルスケアの
プロフェッショナル
サービス

サービス/アプリの企画・開発から、運用やグロース支援まで
伴走スタイルで提供します。

食事

運動

睡眠



カロリーも
栄養バランスも
バッチリ!



1日の目標運動量
達成です!



とても良い
睡眠サイクルです♪

毎日の健康管理を
アプリひとつで!

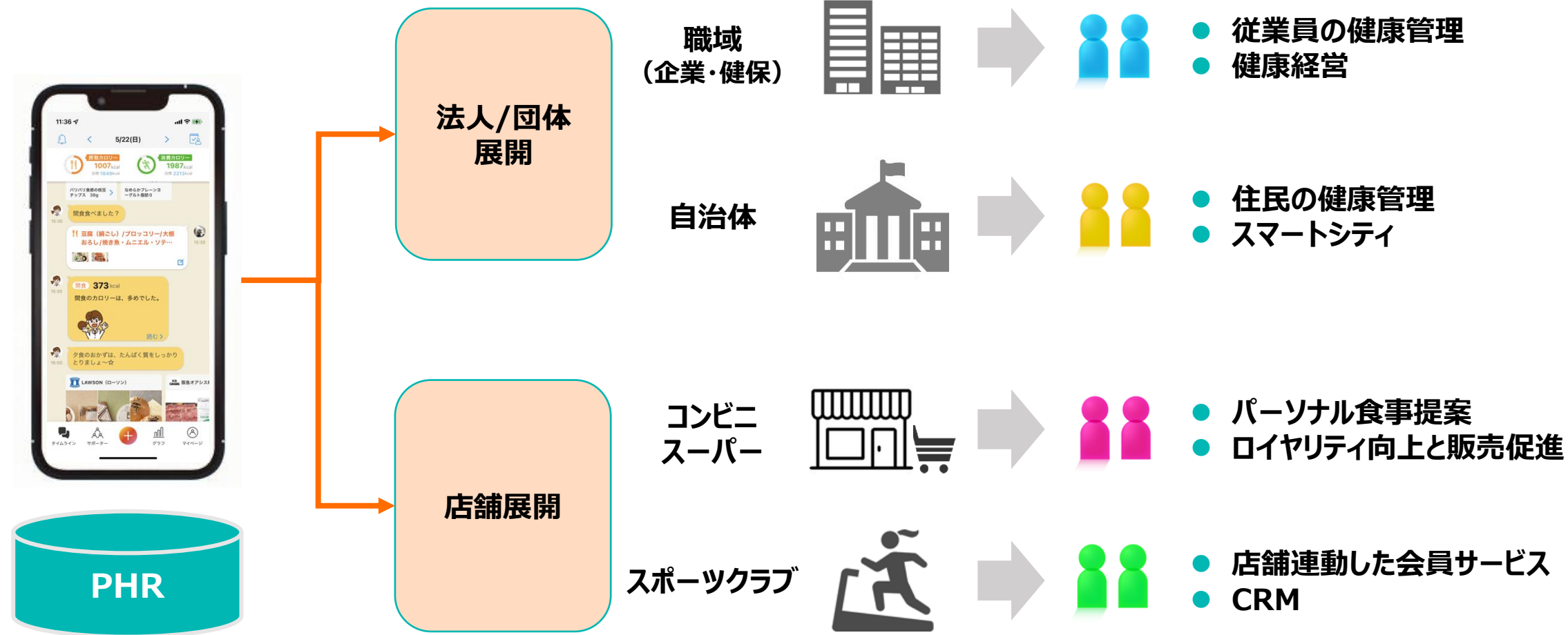


カロママ プラス



日本における「カロママプラス」のB2B2Cアプローチ

B2B2Cアプローチにて、ウェルネス領域に取り組み



- ・ライフログ (食事・運動・睡眠)
- ・健診結果
- ・購買データ etc

「カロママプラス」の導入/利用実績

企業・健保を始め、様々な領域で導入/利用

企業・健保



- 健康経営銘柄の常連企業をはじめ、6000社以上に導入
- 健康経営優良法人の133社が導入

自治体/スマートシティ



自治体やスマートシティに導入

行政 (経済産業省)

- 情報連携基盤を介したPHRユースケースの創出に向けた実証事業（24年度）
大阪・関西万博にて6月末より展示
- 日常生活におけるPHRを活用したユースケース創出事業（23年度、24年度）
ららぽーと系（柏の葉・名古屋・神戸）で検証
- ヘルスケア産業国際展開推進事業（24年度）
タイにおける日系企業の健康管理に活用

スーパーマーケット・ コンビニエンスストア



フジをはじめ、コンビニやスーパー等の小売店で展開

スポーツクラブ



クラブ会員を対象に展開

研究

下記の研究室にて、共同研究を定期実施

- 京都大学大学院医学研究科 社会疫学分野 近藤研究室
- 筑波大学体育系 中田研究室
- 慶應義塾大学環境情報学部 中澤・大越研究室

当社の研究状況

共同研究先	研究概要	結果(または想定される結果)	論文発表時期
京都大学/近藤先生	・コロナ禍の勤務状況や生活パターンの変化と「うつリスク」及び「歩数」をライフログを用いて分析	緊急事態宣言期間中に「平日に歩数が減少」「勤務時間が増加」した人は、うつリスクが高い。 特に「勤務時間が増加」した人は、うつリスクが1.73倍。	2021年2月 Occupational and Environmental Medicine
京都大学/近藤先生	・コロナ禍の食生活変化をライフログを用いて分析	緊急事態宣言期間中は、自炊のメニューが10品/月程度増加。一方、「子育て時間」が5時間増えた人、「うつ傾向」がある人では、減少。 「在宅ワーク」を行っている女性は、月に野菜106g、果物65gの摂取量が多い。	2021年7月 Appetite
東邦大学/朝倉先生	・画像解析AI機能の妥当性研究 ・画像解析AIで推定した栄養素・食材重量が、どれだけ正解に近いか	画像解析AIでの推定は、誤差はあるものの、実用レベルでは問題ない。	2022年1月 JMIR Formative Research
筑波大学/中田先生	・BMI23以上の140名 ・アプリ利用群と非利用群のランダム化比較試験 ・介入期間は3か月間	アプリを使っている方が優位に減量できる。	2022年11月 Nutrients
慶應大学/宮田先生	・スポーツクラブ(ルネサンス)ユーザーのデータ解析。 ・クラブ利用とアプリ利用状況と、健康指標との関連を分析。	アプリを利用している方が、スポーツジムの継続率がよい。	2023年12月 JMIR Formative Research
成育医療研究センター/ 荒田先生	・肥満妊婦250名 ・アプリ利用群と非利用群のランダム化比較試験 ・介入期間は約1年6ヶ月	アプリを利用している方が、産後の体重減少が大きくなる。(非肥満になる)	今後
京都大学/近藤先生	・ライフログ×健診結果× ワークエンゲージメント×勤怠データの分析。 ・ルネサンス社員、約1000名のデータを解析。	健康経営上の重点変数(ワークエンゲージメントや疾病の有無)に影響を与える、ライフログや勤怠データの関連予測式ができる。	

カロママプラスで収集したPHRを研究に活用

AI食事画像認識の妥当性検証

カロママプラスの減量効果の検証

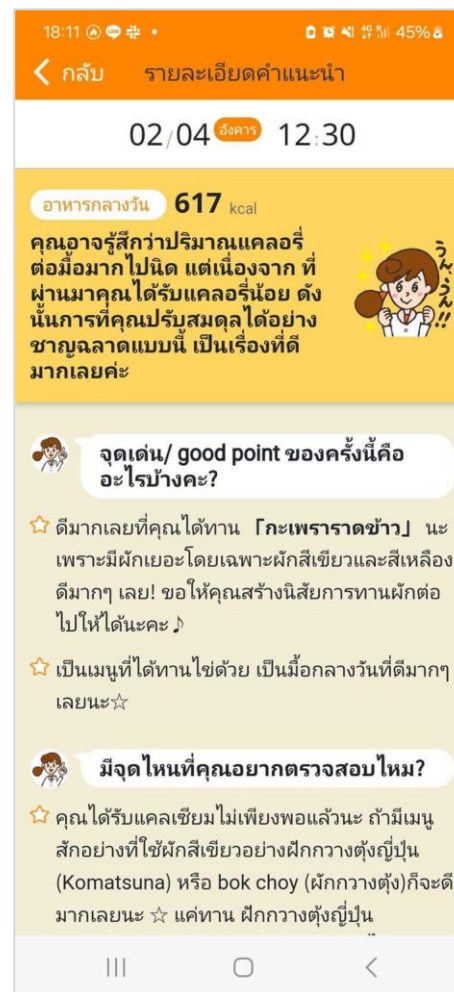
スポーツクラブ+カロママプラスの効果検証

弊社の海外取り組み

2024年度 **タイの生活習慣病予防にむけたAI健康アドバイスアプリの活用実証プロジェクト**

2025年度 **タイ王国・マレーシア／
AI健康アプリによる2型糖尿病等生活習慣病の医療費削減効果の実証事業**

2024年度 「カロママプラス」を、タイ版にローカライズ



タイにおける実証実験の概要と結果



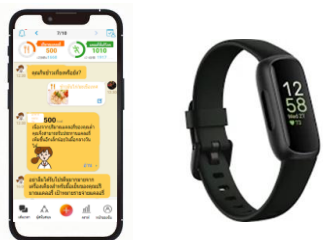
日系企業



タイ人従業員



保険会社



- 日系7社を対象に従業員の健康管理目的で導入
- 自動車部品・食品会社・リース会社・IT・人材紹介



生産性向上や福利厚生など、健康経営に関心はあるも、保険料高騰が、一番の悩みごと

- 従業員90人が2ヶ月間利用
- 女性6割、男性4割、20-30代が7割



WAU 平均53.6%、事後アンケートでは67%がアプリに満足

アプリの利用満足度は高い

- 日系保険会社、現地保険会社にヒアリング



企業保険の保険料が年々高騰（平均10%の高騰）

タイ実証の総括

- タイ人における健康意識は、想定以上に高まってきていることを実感した。
 - 2ヶ月間の平均歩数は、7,426歩（男性7,729歩・女性7,252歩）
 - ヒアリングを通じて、ヘルシー食材や摂取カロリーに対する意識も高いことがわかった

- 企業における健康管理に対する利用動機を理解した。
 - ① 保険料/医療費高騰の抑制
 - ② 病欠等による生産性低下の防止
 - ③ 採用活動への寄与や離職防止等、人材確保に向けた福利厚生強化

- タイにおいて、従業員の健康管理をテーマにした事業の可能性を確認できた。

2025年度 グローバルサウスの実証テーマ

タイ・マレーシアを対象に、保険料/医療費の高騰抑制を目的とした事業の検証



- NCDsの1つである糖尿病・予備軍を対象
(昨年のポピュレーションアプローチから、リスクアプローチへ)
- 保険料/医療費削減効果の検証
(数値指標、治療への影響、医療従事者のコスト等)
- タイ 企業導入の可能性
- マレーシア マネージドケアにおける導入可能性

タイ・マレーシア 実証実験の概要

糖尿病の重症化予防プログラム



AI健康アプリ
「カロママプラス」



ウェアブルデバイス



持続血糖測定器

食事

- AI食事画像自動認識
- 24時間の血糖変動を把握

運動

- デバイスにて歩数の自動計測

睡眠

- デバイスにて睡眠の自動計測

収集したPHRを元に、リアルタイムでAIアドバイス

今回のPoC（2026年）

タイ



糖尿病患者
糖尿病予備軍
計100人

5ヶ月間
(3~7月)

マレーシア



糖尿病患者
糖尿病予備軍
計100人

5ヶ月間
(3~7月)

企業・医療機関を中心に モニターを募集

検証項目

- 1、健康指標
血糖値（HbA1c他）、血圧、
体重・BMI等
- 2、副次指標
アプリ利用状況(起動率・入力率)
アプリ継続意向(アンケート)、
- 3、アンケート解析
アプリの好感点・課題点
- 4、ライフログ分析
喫食状況、活動(歩数、運動)、
睡眠(睡眠時間、入眠・起床時刻)

目指す成果

短期

- 数値指標の改善
- 投薬等、治療内容の変化
- 疾病管理（生活習慣改善指導）コストの低減

中期

- 数値指標の改善による
将来の医療費削減

マネージドケア/保険会社、
企業の導入検討の材料となる、
成果を確認することが目的

現在の進捗

タイ

- 4社にて98名のモニターを獲得、参加者説明会を実施
- 昨年アプローチした現地保険会社と、サービス展開の可能性を継続協議中

マレーシア

- 以下の2つのルートにて、モニター参加者を獲得中
 - ① マネジードケア事業会社（TPA）経由
 - ② マラヤ大学病院の医師経由

マレーシアは、マネージドケア会社があることで、患者アプローチの効率は良さそう
タイは、企業トップにアクセスし、理解を得られれば、その後はアプローチは順調

